

**業況DIの現況判断は▲16、先行きは7p悪化の▲23を見込む
～ 依然として人手不足が課題 ～**

【今回調査の結果概要】

- 業況DIの現況判断は▲16で、先行きは7ポイント（以下、p）悪化の▲23。
- 項目別では売上高DIの現況判断が▲26、営業利益DIは▲28となった。先行きは、売上高DIが3p改善の▲23、営業利益DIは7p悪化の▲35。
- 労働力DIの現況判断は▲47、前回より5p上昇したが人手不足感が依然として強い状況となっている。
- 生産性を改善する課題としては、機器の老朽化・更新の遅れ、社員の未熟さ・技術不足、等の回答が目立った。

（注）DIについて

業況判断、売上及び利益の増減、設備、労働力、在庫の過不足などについて、以下の式により、各項目のDIを算出。

$$DI = (\text{「良い」、「増加」、「上昇」、「過剰」とする回答企業の構成比}) - (\text{「悪い」、「減少」、「下落」、「不足」とする回答企業の構成比})$$

例) 業況が良いと回答した企業が15%、普通と回答した企業が64%、悪いと回答した企業が21%
⇒ 15（良いと回答）－ 21（悪いと回答） で 業況判断DIは▲6（マイナス6）

【調査の対象・期間・方法等】

1. 調査対象企業	人吉市内会員事業所 284 事業所
2. 調査時期	平成30年9月14日（金）～10月12日（金）
3. 対象期間	平成30年7月～9月（平成30年度 第2四半期）
4. 回答状況	86事業所（回収率 30.3%）

【回答企業数と構成比】

業種	企業数 (社)	構成比 (%)	業種	企業数 (社)	構成比 (%)
製造業	12	14.0	卸・小売業	27	31.4
建設業	14	16.3	飲食業	6	7.0
観光関連業	8	9.3	サービス業	19	22.1
			全体	86	100.0

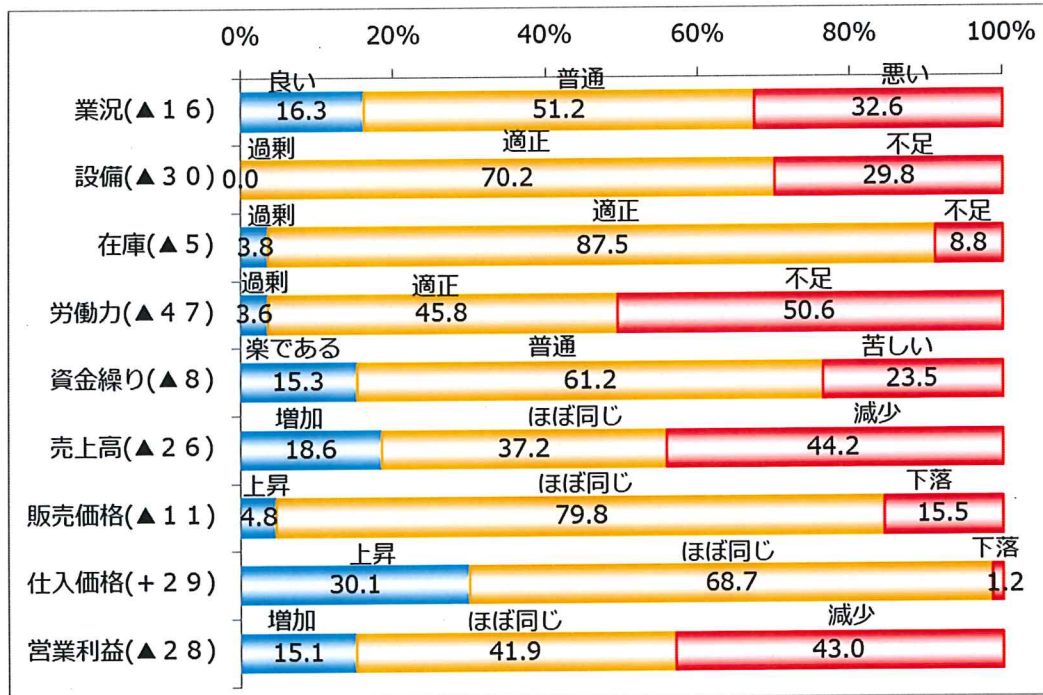
1. 概況

各項目の現況判断の回答結果は図表1のとおりである。

業況は「普通」という回答が51.2%で最も多く、「良い」が16.3%、「悪い」が32.6%となっている。業況DIは▲16となっており、前回調査より5ポイント悪化している。

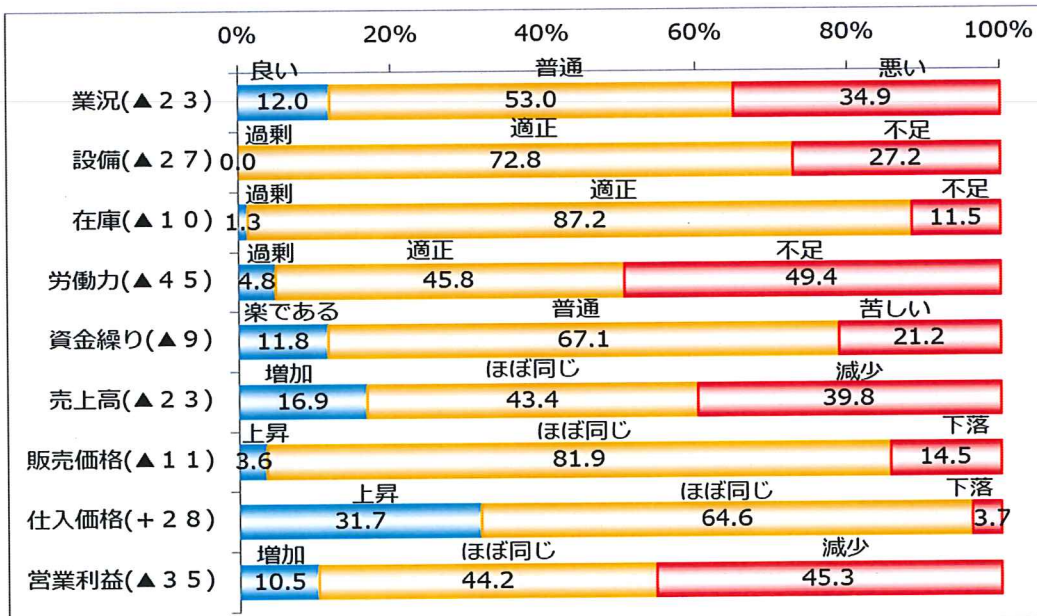
項目別にみると、「労働力」では「不足」という回答が約5割おり、人手不足感の強さが依然としてうかがえる。

図表1 項目別の現況判断



※項目名の () 内の数字はそれぞれの調査項目のDI

(参考) 項目別の先行き判断



2. 調査項目ごとの状況

(1) 業況D I

業況D Iの現況判断は▲16で、業種別にみると「建設業」が+21で最も高く、以下、「飲食業」(±0)となっており、それ以外の業種ではマイナスとなっている。

先行きは7p悪化の▲23で、業種別では「製造業」や「サービス業」で改善し、「観光関連業」「卸・小売業」で横ばい、残りの2業種「建設業」「飲食業」で悪化している。

図表2 業況D I

	平成30年 4~6月期 (前回調査)		平成30年 7~9月期 (今回調査)		平成30年 10~12月期 (先行き)	
		前回調査比		前回調査比		今回調査比
全体	▲11	—	▲16	↓	▲23	↓
製造業	▲7	—	▲33	↓	▲25	↑
建設業	20	—	21	↑	▲29	↓
観光関連業	▲50	—	▲50	→	▲50	→
卸・小売業	▲32	—	▲19	↑	▲19	→
飲食業	▲40	—	0	↑	▲17	↓
サービス業	9	—	▲21	↓	▲12	↑

(2) 売上高D I

売上高D Iの現況判断は▲26で、前回調査比4ポイントの悪化となった。業種別にみると「サービス業」の±0で最も高く、それ以外の業種ではマイナスとなっている。

先行きは3p改善し▲23となり、業種別では「製造業」「飲食業」「サービス業」で改善し、残りの3業種「建設業」「観光関連業」「卸・小売業」で悪化している。

図表3 売上高D I

	平成30年 4~6月期 (前回調査)		平成30年 7~9月期 (今回調査)		平成30年 10~12月期 (先行き)	
		前回調査比		前回調査比		今回調査比
全体	▲22	—	▲26	↓	▲23	↑
製造業	▲36	—	▲42	↓	▲8	↑
建設業	13	—	▲7	↓	▲14	↓
観光関連業	▲50	—	▲38	↑	▲57	↓
卸・小売業	▲46	—	▲37	↑	▲41	↓
飲食業	▲60	—	▲50	↑	▲33	↑
サービス業	9	—	0	↓	6	↑

(3) 営業利益D I

営業利益D Iの現況判断は▲28で前回調査比4ポイントの改善となった。業種別にみると「観光関連業」の±0が最も高く、残りの5業種ではマイナスとなっている。

先行きは7p悪化の▲35で、業種別では「製造業」と「飲食業」で改善し、「サービス業」では横ばい、残りの3業種「建設業」「観光関連業」「卸・小売業」で悪化している。

図表4 営業利益D I

	平成30年 4~6月期 (前回調査)		平成30年 7~9月期 (今回調査)		平成30年 10~12月期 (先行き)	
		前回調査比		前回調査比		今回調査比
全体	▲32	—	▲28	↗	▲35	↘
製造業	▲29	—	▲50	↘	▲33	↗
建設業	7	—	▲14	↘	▲43	↘
観光関連業	▲75	—	0	↗	▲25	↘
卸・小売業	▲56	—	▲30	↗	▲41	↘
飲食業	▲20	—	▲17	↗	0	↗
サービス業	▲22	—	▲37	↘	▲37	→

(4) 労働力D I

労働力D Iの現況判断は▲47で、前回調査比5ポイントの上昇となったが、依然として人手不足感の強い状況が続いている。業種別にみると「観光関連業」の▲71が最も人手不足感が強く、以下、「飲食業」(▲67)、「建設業」(▲64)と続いている。

先行き全体は2ポイント上昇し▲45で、業種別では「製造業」と「サービス業」で現況判断よりも人手不足感が強まっており、「飲食業」「卸・小売業」で横ばい、残りの2業種で弱まっている。

図表5 労働力D I

	平成30年 4~6月期 (前回調査)		平成30年 7~9月期 (今回調査)		平成30年 10~12月期 (先行き)	
		前回調査比		前回調査比		今回調査比
全体	▲52	—	▲47	↗	▲45	↗
製造業	▲57	—	▲9	↗	▲18	↘
建設業	▲27	—	▲64	↘	▲43	↗
観光関連業	▲63	—	▲71	↘	▲43	↗
卸・小売業	▲46	—	▲41	↗	▲41	→
飲食業	▲80	—	▲67	↗	▲67	→
サービス業	▲61	—	▲50	↗	▲61	↘

3. 地域経済や業界動向等に関する自由記述

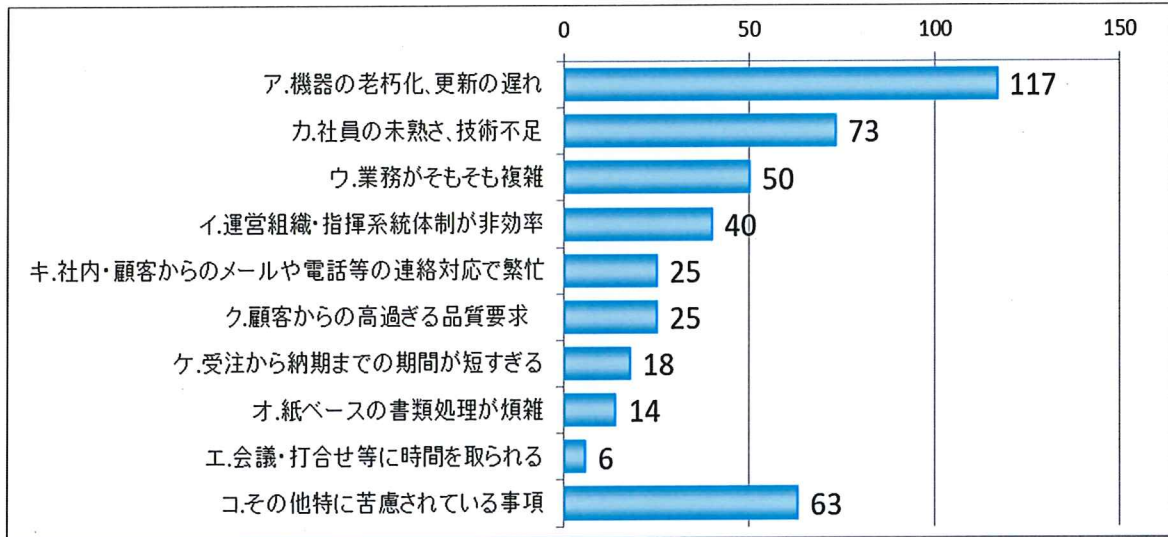
コメント	業種
夏場の売り上げが悪い。冬場になると少しは良くなると思う。仕入価格が高くて利益が無い。	製造業
①熊本地震の特需等により工事受注は好調である。 ②労働力について高齢化しており、若手労働者が不足。	建設業
測量業者です。年々公共事業は減ってきています。民間施工工事も少なく、全体の工事も減ってきています。今年は人吉・球磨に災害がありましたので受注が少しありました。今後はどうなっていくのでしょうか。	建設業
7月の台風・豪雨、JRの運休で7月期は20%ダウン（売上）。8月～9月で持ち直し現四半期でトントン。7月の被災が悔やまれます。先行きは概ね前年並みである。	建設業
ラフティング観光の減少。他県のラフティングスポットに比べて競合会社が多すぎる。	観光関連業
仕入れ価格は変わらないのに売価を下げないと売れない時代になってきた。大型量販店の影響は大きい。	卸・小売業
以前からの人口減少に加え、アルコール離れの為か消費が伸びていない様子。	卸・小売業
運送費の値上により仕入れ価格が上昇している。	卸・小売業
もっと伸びる要因は多々あるものの人手不足が悩ましい。	飲食業
売上げ上昇であるが、材料値上がりの為利益が残らない	サービス業
慢性的なスタッフ不足と介護報酬の下落で経営そのものが厳しい。処遇改善手当でスタッフの収入は増えたが、その負担は利用者のため、サービス利用にブレーキがかかる。	サービス業

4. 特別テーマ「生産性改善について」

(1) 各社の生産性の改善における課題について

生産性の課題について大きいと感じられる事項（10項目：ア～コ）について調査を行った。

結果は、下記グラフの通り。



生産性改善に関する自由記述	
コメント	業種
個人経営なので現状維持くらいが目的で生産性まで深く考えていません。店主が高齢で頑張っています。	製造業
労働力不足による従業員への負担が大きく、経営者への負担にもなっている。	卸・小売業
スタッフ不足。何度も報酬UPしたがそれでも少しでも条件のいいところに行ってしまう。良い人材が育ちにくい。	サービス業
サービス業につき、生産性の改善は難しい。	サービス業

以上